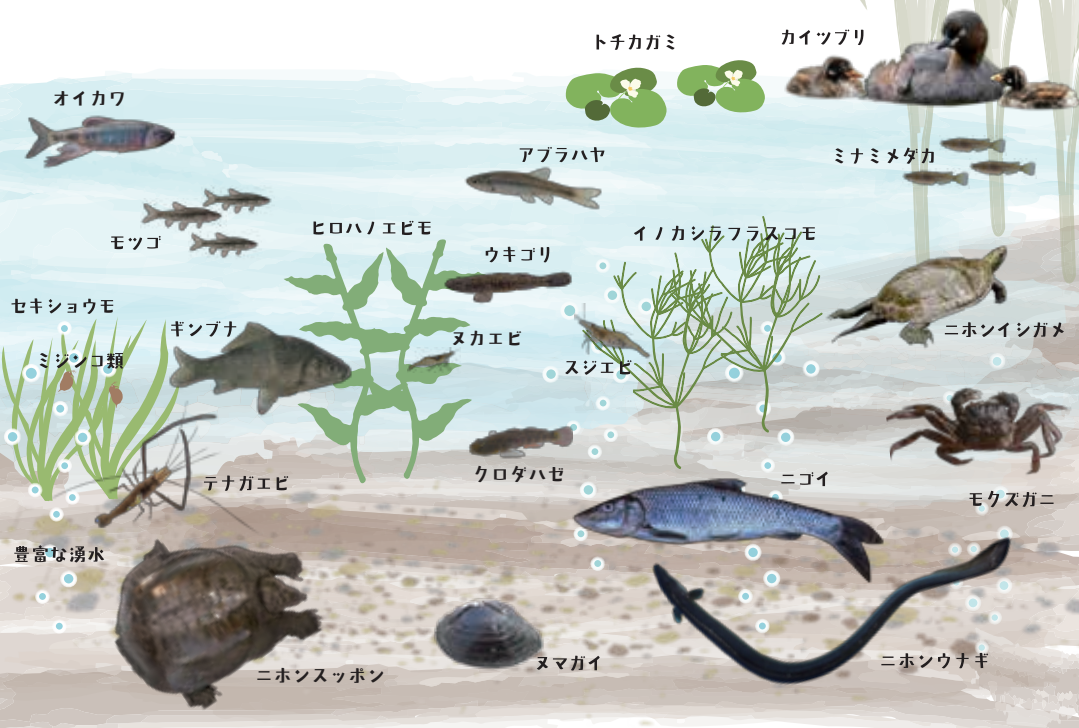


井の頭池の目標

魚やエビ、カメ、水鳥など多様な在来種と埋土種子等から発芽した水草を保全し、井の頭池の生態系を回復させます。自然の浄化能力を活用し、池の底が見えるような水質を維持していきます。さらに、外来種が再び入ってこないよう、来園者の理解と関心を高めます。これらのとりくみを、ボランティアや地域の方々と一緒にっていきます。



これから目指す井の頭池のイメージ

◆お問い合わせ

東京都西部公園緑地事務所 工事課

<https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jimusho/seibuk/inokashira/index.html>

〒180-0005
東京都武蔵野市御殿山1-17-59
TEL: 0422-47-0192
FAX: 0422-49-8316
email: S0200220@section.metro.tokyo.jp

「未来へつなごう、湧水の池
KAIBORI News」



「井の頭池かいぼり報告会
-よみがえる池・湧水・湿地- 資料集」
(2019年1月27日開催)



井の頭恩賜公園
公式ホームページにて
ダウンロードできます

(令和2年3月製作)

登録番号 (1)18



未来へつなごう、湧水の池



かいぼりによる 自然再生のとりくみ

かいぼりはため池を維持する手法として、昔から日本各地で行われていました。井の頭池では水質の改善と外来種の防除を目的として、2017年の開園100周年に向けて3回実施してきました。今後も数年ごとに繰り返し行う予定です。



年度	開園100周年			以降
	平成25年度	平成27年度	平成29年度	
事業名称	かいぼり25	かいぼり27	かいぼり29	数年に1回 実施予定
期間	2014年1月 ～3月	2015年11月 ～2016年3月	2017年12月 ～2018年3月	
対象池	お茶の水池 ボート池	全域	全域	



以前の井の頭池

井の頭にはかつて豊富な湧水がありましたが、1960年代に枯渇し、水質が悪化しました。1980年ごろからオオクチバスなどの外来種が増え、モツゴ、エビ類などの在来種が減りました。



湧水が豊富だった頃の井の頭池

池水が透明で、一面に水生植物が広がっていた
(公益財団法人東京都公園協会所蔵)

before KAIBORI

かいぼり

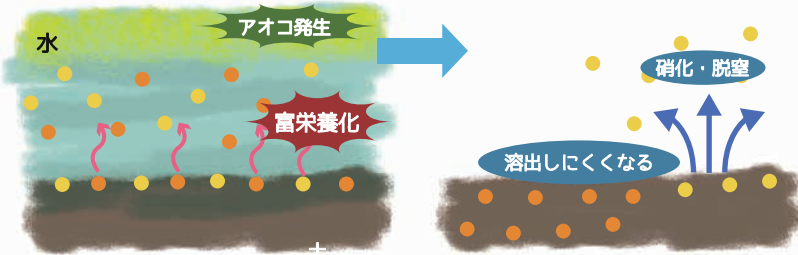


池底を干すと・・・

水質の改善

池が濁っている状態

池底を空気にさらした状態



底泥から窒素やリンが水中に溶け出し、アオコなどの植物プランクトンが増殖して池水が濁ります。

窒素が空気中に発散され、リンは水に溶けにくい状態に変わります。水を戻した後は、富栄養化が抑制されて水質が改善されます。



① 池の水を抜く



② 生きものを捕る



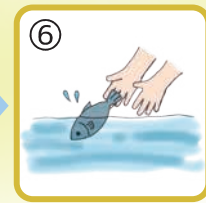
③ 仕分ける



④ 池底を干す



⑤ 水を入れる



⑥ 在来種を戻す

在来種の増加！

クロダハゼやエビ類などの在来の水生生物が増加し、それらを食物とするカイツブリが増殖するようになりました。水草も復活し、トンボの種数と個体数も増加しました。かいぼり後も在来種の生育・生息状況をモニタリングしています。また、来園者にこれらのとりくみを知ってもらうための普及啓発活動を行っています。

魚類等を捕獲したら・・・

外来種の防除



池の水を抜くと魚の逃げ場がなくなるため、魚類等を効率よく捕獲することができます。井の頭池のかいぼりでは多くのボランティアが参加し、オオクチバス、ソウギョなど多数の外来種を駆除しました。

水草復活！

かいぼり後、これまで絶滅したと考えられていたイノカシラフラスコモやその他在来の水草が約60年ぶりに池底より復活しました。しかし、外来種のアメリカザリガニが増え、貴重な水草に被害を与えるようになったため、駆除を行っています。

これらの水草は種の系統保存のため、園内外の施設でも保全しています。



水面上に花をつけるツツイトモ



カイツブリの親子



スジエビとシャクモ

池底のイノカシラフラスコモ